

# 鉄路の行方

線路は どこまでも続く？

平成29年8月

## 鉄路の行方

日本に最初の鉄道が開通したのは明治5年の新橋－横浜間(29.1km)である。北海道はそれから遅れること8年、明治13(1880)年11月28日の手宮-札幌間(35.2km)であった。以来137年、多くの困難を乗り越え、開拓の先駆となり、産業、文化の動脈として道民生活の向上に大きな役割を果たしてきた。しかし、その鉄道が今岐路に立たされている。「鉄路はどうあるべきか？」以下に、私見を述べる。

## 構成

- I. 岐路に立つ鉄路
- II. 予 徴
- III. どう描く？ グランドデザイン
- IV. 時代を超えて(鉄路は活かして残す)

### 旭川－上野間の経路(明治37年10月)

本道と東京間の列車および連絡航路の時刻表をとると、10時55分に旭川駅を出発して小樽駅着が17時45分、小樽駅から高島駅までは客馬車または徒歩で連絡し、高島駅発が19時5分、函館駅着が翌朝の7時3分、函館駅からは日本郵船株式会社の函館・青森間航路を利用して10時に出帆し、青森着が16時、青森駅からは日本鉄道を利用して19時30分に出発し、上野着は3日目の夕方の16時15分で、この間53時間20分を要した。

出典:「北海道の鉄道の歩み」